





門 7 保 3  
2876  
#4  
3098

新選 意法秘訣三



一 此所記之法...

一 法家之法...

一 百姓之法...

一 此之法...

一 此之法...

一 此之法...

一 此之法...

一 此之法...

一 此之法...

一九 法身以神通入之經隨佛方

一十 若言曰之旅人須休之之念直之若常之念之

福

一十一 若曰之張子人馬之方

一十二 心以之院後之身保福

一十三 白六之亦之

一十四 若曰之目之是批之矣何保

一十五 貴目之念之身中乃為之故

一十六 駕之苑人之

一十七 此之

一十八 師之

一十九 善之人言即之村之

一 思川之

一 師之

一 念之

一 道中之

一 道中之

一 之

一 師之

新選憲法秘錄

其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

一 其術在通外之法家以心術

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '新選憲法秘錄' and several lines of handwritten Japanese characters.

人言其不可不為也... 此中危也

一 侍身... 威名... 是之... 亦危... 保身... 一

一 中... 子... 仰... 一... 人... 以... 可... 也... 一

一 侍身... 保身... 一

一 此の如くは佛の精意を存して中付の儀に務めず  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に

一 此の如くは佛の精意を存して中付の儀に務めず  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に

一 此の如くは佛の精意を存して中付の儀に務めず  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に  
おぼえられたるに依りて或は中を以て是より中流に





其又三世若事... 海... 其... 海...  
其又三世若事... 海... 其... 海...  
其又三世若事... 海... 其... 海...

一 所... 海... 海... 海... 海...  
一 所... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

一 川... 海... 海... 海... 海...  
一 川... 海... 海... 海... 海...

しやうりてんしんりつり  
たふく道中改元年五福の如近年又を櫻に古木結う  
其目改不没るなりはる如孤女存ふ匠に美中中子未  
白く住い人たり品川又を板橋の性哉有る如  
性善の如く性西の如く白も方と申す中子未  
いしんりも我高の如く何んが又を在る如  
附をいし思ふに木如く付る如く一を如く改元  
ふつは後若いと思ふ如く履の如く定し人  
は法をいし如くいし元年悟人言は後善なり  
と美居中子未のいし中子未は其限居る如く  
如く彼中子未の如く減はる如く向かふ如く一は法

陸路のいし如くいし心はあらんといふ如く在る如  
この如く付る如くいし如くいし如くいし如く  
此の如くいし如くいし如くいし如くいし如く  
法にいし如くいし如くいし如くいし如く  
性善の如くいし如くいし如くいし如く  
有る如くいし如くいし如くいし如くいし如く  
福也

月口

二

一  
百姓可人のいし福也



とと道中より海を元了る  
一 孟海の南ありて曰く後漢の昔白人事大後之を  
持てて道一りて人をして居る程たりと我道日  
一人之を家途中に病死せしるに在る程後在  
とて後漢の南ありて居る程ありと我道日  
之程ありて道人を程りて昔元君在中に病死  
せしるに在る程ありと我道日  
多程後漢の南ありて居る程ありと我道日  
玉皇の南ありて居る程ありと我道日  
一 石道人は是りて在る程ありと我道日  
我道日 孟海の南ありて居る程ありと我道日

勿論海原の事なりとの申すりて在る程ありと我道日  
右の道定政元年の程ありて近年又の程ありと我道日  
此の程ありて人をして居る程ありと我道日  
子孫ありて地を居る程ありと我道日  
と我道日ありて一歩ありて居る程ありと我道日  
定政の南ありて居る程ありと我道日

目

右の道中より海を元了る  
一 孟海の南ありて曰く後漢の昔白人事大後之を  
持てて道一りて人をして居る程たりと我道日  
一人之を家途中に病死せしるに在る程後在  
とて後漢の南ありて居る程ありと我道日  
之程ありて道人を程りて昔元君在中に病死  
せしるに在る程ありと我道日  
多程後漢の南ありて居る程ありと我道日  
玉皇の南ありて居る程ありと我道日  
一 石道人は是りて在る程ありと我道日  
我道日 孟海の南ありて居る程ありと我道日





一 布衣... 亦... 亦... 亦...

- 一 貴國政... 亦... 亦... 亦...
- 一 旅力... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

- 一 法...
- 一 亦...
- 一 亦...
- 一 亦...

右邊の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

一、住人の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

一、住人の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

一、住人の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

### 月

右邊の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

### 己月

主水  
伊豫

右邊の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも

右邊の住人は喜用の心をもなげられ  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも  
おれりともおれりともおれりとも







一 此通布正標之文... 右正信信山... 正信信山... 正信信山...

大正九年九月廿七日  
正信信山  
正信信山

正信信山  
正信信山  
正信信山

正信信山

一

之福... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...

一

正信信山... 正信信山...





如馬是足

二百文

如馬是足

二百文

如是是人

二百文

但 宛 古 何 不

如馬是足

如馬是足

二百文

如馬是足

二百文

如是是人

二百文

但 宛 古 何 不

如馬是足

如馬是足

二百文

如馬是足

二百文

如是是人

二百文

但 宛 古 何 不

有之固亦在途途中之便路之方在也夫之勿語人之途

清不深之在矣之矣王中之精之何付之方計之方也

刻今之人心之便路拂之矣夫末之何也之口之如神

之中之形之矣之矣中之精之何付之方計之方也

之何也之口之如神之矣夫末之何也之口之如神

之何也之口之如神之矣夫末之何也之口之如神

如也

文政七年甲午二月

六十四名之改人如也

口年七月七日... 刻... 中... 上... 知... 予... 合... 少... 足... 一

一十

口年七月七日... 刻... 中... 上... 知... 予... 合... 少... 足... 一

文化の改革は我々の生活に立派な人達は体も心も  
旅人も多し休む所も村も下り支那のやうな  
く村も休む所も着る物もやうな村も前も  
りも前も前も前も前も前も前も前も  
着る物も着る物も着る物も着る物も  
一 宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に

一 宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に  
宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に宿の所の道に

文化二年七月

文

二







村  
谷  
田

十二

一 柳毛或曰天痛口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物  
と云句

古而しをり不々道心多ふ人言浮言不  
名を以て師を云ふは思法寺院人言此道方と云ふ  
時と潤中一舟法定て云ふを新中と云ふは法衣を遊言  
及中而しは掃方書筆を以て 信付法衣を以て掃方  
人言減少者も云ふは掃方書筆を以て減少者も云ふは掃方  
中と云ふは山向ふ新中向ふは掃方書筆を以て  
是を古院の人言定約と云ふは掃方書筆を以て

一 柳毛身をり多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物

文化十一年九月

十二

一 柳毛身をり多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物

リ也修

常盤修

心印修

法衣修

柳毛

芝草修

一 柳毛身をり多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物

柳毛身をり多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物

歩り多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物

長形を以て

四修書目

二修書目

二修書目

但人は是を人言多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物  
六人言可修多口能地故人多口新尔古院旅り多故浮物



一 諸位

中位費用

一 燈籠

少費用

但蒲室中少付之少也又目録に... 少苦海付  
者之少也中少付之少也在... 少苦海付  
又目録に... 少苦海付

一 河内舟を燈籠に付

但月夜舟高之付

一 舟高

舟高費用

但蒲室中少付之少也又目録に... 少苦海付

一 舟高

舟高費用

但費用多しを右別令之に... 舟高費用

舟高費用... 舟高費用

舟高費用... 舟高費用

一 長舟

舟高費用

但人は... 舟高費用

舟高費用... 舟高費用

一 舟高費用... 舟高費用

舟高費用... 舟高費用

舟高費用... 舟高費用

一 舟高費用

舟高費用

一 舟高費用

舟高費用

舟高費用... 舟高費用



但長持を以て人は是れを以て奉りて之を以て移すを合て  
仁王 二ノ名但書在り方何れに同か

一 公家も亦宮門御方にはか守社にても山形中少御人  
とててもは法家も旅りて何れにても人六ノ目持に積り  
区々目してても是を別合に積りて何れにても

一 山用旅りてても人三か也とてても是を以て人三か  
也とてても是を以て積りて何れにても

一 在りてても是を以て人三か也とてても是を以て人三か  
也とてても是を以て積りて何れにても

此の御座るは是れを以て改めたりては是れを以て

一 法家も亦身の内物改りて代り改りて人三か也とてても  
也とてても是を以て積りて何れにても

一 法家も亦身の内物改りて代り改りて人三か也とてても  
也とてても是を以て積りて何れにても

二ノ名何れに同ては是れを以て

一 法家も亦身の内物改りて代り改りて人三か也とてても  
也とてても是を以て積りて何れにても

乃通力... 洞方... 山... 門... 佛... 之...  
右... 山... 門... 用... 旅... 行... 者... 改... 之... 義... 事... 行... 不... 以... 向... 佛... 觀... 觀... 仁...  
少... 之... 故... 石... 川... 之... 正... 殿... 以... 其... 掃... 方... 之... 中... 上... 之... 知...  
一聖... 符... 人... 是... 撰... 之... 也

文政三年四月... 成... 儀... 早... 人... 同... 友

其... 之... 中... 之... 品... 之... 了... 其... 用... 之... 義... 事... 行... 不... 以... 向... 佛... 觀... 觀... 仁...  
其... 之... 故... 石... 川... 之... 正... 殿... 以... 其... 掃... 方... 之... 中... 上... 之... 知...  
少... 之... 故... 石... 川... 之... 正... 殿... 以... 其... 掃... 方... 之... 中... 上... 之... 知...  
一聖... 符... 人... 是... 撰... 之... 也

山... 之... 名... 物... 以... 下... 之... 如... 也... 故... 人... 不... 亦... 矣...  
其... 之... 故... 石... 川... 之... 正... 殿... 以... 其... 掃... 方... 之... 中... 上... 之... 知...  
少... 之... 故... 石... 川... 之... 正... 殿... 以... 其... 掃... 方... 之... 中... 上... 之... 知...  
一聖... 符... 人... 是... 撰... 之... 也

未六月

岩... 伊... 孫... 守

石... 川... 之... 正

文化三年八月... 柳... 系... 堂... 伊... 孫... 守... 同... 在... 之... 系...  
山... 之... 名... 物... 之... 概...  
人... 是... 四... 人... 撰... 之...



山智志地三根

日三ノ人ノ身ノ

但門ノ子ノ何ノ... 此ノ人ノ身ノ又... 口ノ... 山ノ...

十七

一也...

文政ノ年... 國ノ... 山ノ... 川ノ...

天明四年...

一... 山ノ... 川ノ...

山智志地三根

山智志地三根... 山ノ...

山智志地三根... 山ノ... 川ノ...

後... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

一善... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

一... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

... 山...

尼川島の人々、毛利徳政と家康、と云ふ事あり

其

伊人門下を有し、其能く其志を以てし、其爲す可く是  
伊達と其能く其志を以てし、其爲す可く是  
戸置一日として、伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
白と定伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
人是一人として、伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
伊達と其志を以てし、其爲す可く是

尼川島の人々、毛利徳政

年八月廿七

其能く其志を以てし

本一

一伊達系、他者も、伊達と其志を以てし、其爲す可く是

其能く其志を以てし

文政六年、年十二月、戸置と其志を以てし、其爲す可く是  
其能く其志を以てし、其爲す可く是  
伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
戸置と其志を以てし、其爲す可く是  
白と定伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
人是一人として、伊達と其志を以てし、其爲す可く是  
伊達と其志を以てし、其爲す可く是

本二

一合、伊達と其志を以てし、其爲す可く是



ともて方しといふ家平は其補海を以て一法に  
 稀成なるを惡しきと捕るに成るるは其時を以て  
 中へ居て之を止る者といふこと此の道は同新の法  
 ともて方しといふ家平は其補海を以て一法に  
 稀成なるを惡しきと捕るに成るるは其時を以て  
 中へ居て之を止る者といふこと此の道は同新の法

有るに因りて其の事を知るに其の事を知るに

延享二丑年六月十九日 伊賀 附了

中山右 石川を以て

文政八年六月廿九日 伊賀 附了

毛利隱岐守の事を知るに其の事を知るに

尚二月二日ありて其の事を知るに其の事を知るに

内なる事を知るに其の事を知るに



此城大着有杭一各一也何右句下了可几有通  
高有右句下各杭一各何右杭一各何右杭一各何

二月廿八日

毛利澄海を授けり

坂田八右衛門

同年四月の日人幕府存りしり

毛利澄海を授けり

ウラノト通毛利澄海を授けり  
山崎玄蕃知事以上  
西田月朝日  
岩瀬伊藤守  
石川玄ある

是

旗中より旗手幕府へ公言するに毛利澄海を授けり

此城は毛利澄海とて其西に通有右句下了可几有通  
高有右句下各杭一各何右杭一各何右杭一各何  
友此且未信と者之信と其西に通有右句下了可几有通  
中島今所授けりしり其西に通有右句下了可几有通  
斗是通有右句下各杭一各何右杭一各何





新選憲法秘源卷之二

言和ら部  
定

- 一 親王皇弟皇子皇孫之法親類を在りし中余等より
- 一 皇親皇族之をいふは皇親皇族を指すに在り
- 一 皇親皇族之をいふは皇親皇族を指すに在り
- 一 皇親皇族之をいふは皇親皇族を指すに在り





一 以成及地... 口... 中... 一

一 右... 一

や

正徳元年 丑月

奉行

定

一 切... 一

一 口... 限...

限...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

一 口...

口...

... 所...

...

一 寛永...

...

一 新法...

一 新法...

一 法藏...

...

一 何...

...

正徳元年六月日

奉行

一 川船...

定

一 毎年八月...

...

一 仰年...

...

一 仕...

...

寛保二年

奉行

...

- 一 仰る山の方より飛下り南に移り形は右に飛渡る  
至る所あり
- 一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 公儀御下  
お給ひの時仰る山の方より飛下り形は右に飛渡る  
以上は移る所あり年々漸く形は右に飛渡る
- 一 口陰より移り入り河に下り之様観て定む候事礼商人  
より移る所あり移る所あり
- 一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり
- 一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり

一 遠く川の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり

一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり

辰月日

一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり

目日

一 仰る山の方より飛下り南に飛渡る 仰る山の方より飛渡る  
以上は移る所あり







上丁の祭科の少少集りて子細に之を考へて  
能く少少及みし地は正丁の最良者也

辰八月

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

伊豆地方の川

一 伊豆地方の川は、古くは伊豆山脈の南麓に  
東山脈の山脈に連なり、伊豆地方の川は、  
少くは伊豆山脈の南麓に、伊豆地方の川は、  
伊豆地方の川は、伊豆地方の川は、

是

伊豆	東海	北	関東	東北
山	石	伊	河	和
揚	也	孫	信	我
河	老	伊	伊	之
我	我	我	之	之



常陸

上那

中那

甲斐

信奥

少羽

伊豆

安房

言六万石分 全六万石分

但三万石分

全五万石分

完

中七万石

備中

備後

丹後

但馬

信北

石見

言六万石分 全六万石分

但三万石分

全五万石分

完

西出

若狭

日向

能登

言六万石分 全七万石分

但三万石分

全五万石分

完

右ノ別在之

言三万石分 全三万石分

言二万石分 全二万石分

言一万石分 全一万石分

言五千石分 全五千石分

言二千石分 全二千石分

言一千石分 全一千石分

言五百石分 全五百石分

言二百石分 全二百石分

言一百石分 全一百石分

言五十石分 全五十石分

言二十石分 全二十石分

言十石分 全十石分

言五石分 全五石分

言二石分 全二石分

言一石分 全一石分



月別之由和初月とて下下各々有之由  
之由法乃申下付下下下下下下下下下下

一 寛政六丁年六月廿日 信后出之日 山内左山内左  
追修病元ありしを 修村山内左月之期 山内左  
山内左山内左山内左 山内左山内左 山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

石之通相 山内左山内左 山内左山内左  
法乃申下付下下下下下下下下下下  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

一 日十午二月廿日 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

一 寛政三丁年十月廿日 信后出之日 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

一 山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

一 山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

一 山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左  
山内左山内左 山内左山内左 山内左山内左

此月... 年... 龍... 村... 法... 乃... 月... 日...  
... 月... 日... 何... 月... 龍... 乃... 月... 日...  
... 年... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 年... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...

一 口十年年二月... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...

一 上... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...  
... 龍... 乃... 月... 日... 龍... 乃... 月... 日...

法科ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也  
為後方也ノ百石存可為後方也  
今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也  
今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也

一 定額又今年六月ノ日  
法科ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也  
今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也

一 可成及所ノ下ノ百石存可為後方也  
今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也

一 今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也

一 法科ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也  
今年之區也ノ積也  
中ノ行也也  
但ノ成及所ノ下ノ百石存可為後方也



卯八月

格有善無善

右印代法乃甲只今道之方石全之善也士獲人母  
於苑之方也如向後在道通之方也今之善也  
如印上

事保正一辰年三月

印代法乃甲只今道

全之善也

七人抄本

全之善也

元大九人

系五代八人

但至人何抄本為大八抄本

右之印代之人數之印月日向亦方之善也何善也代

此之印代之人數之印月日向亦方之善也何善也代

信之印代之人數之印月日向亦方之善也何善也代

全之善也

九人抄本

書印代人

是之印代之人數之印月日向亦方之善也何善也代

右印上之抄本

全之善也

信之印代人

全之善也

全之善也

全之善也

全之善也

信之印代人

是之印代人

中印代之人

印代之人

是之印代之人數之印月日向亦方之善也何善也代

此寶帳花類月

一 全支推与

檢名乃申

是之在申從遷於信類申

箇中ノ名代ナ

一 全支推与

此系傳之申代乃申

是之在梅津山系

一 全支推与

此柳乃申

是之在比良山司水乃代乃申

一 全支推与

此吉野乃代

一 全支推与

此吉野乃代

一 全支推与

此吉野乃代

此推入乃申

一 全支推与

此代乃申

此推入乃申

一 全支推与

此推入乃申

一 全支推与

此推入乃申

是之在乃石乃申

是之在乃石乃申

是之在乃石乃申

是之推

享保二十一年三月

一 檢名乃申





一 高年十年之久... 由... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 九月... 一

一 高年十年之久... 由... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 口... 一冊... 一  
 一 九月... 一

一 高年十年之久... 由... 一

所取在之通

此通之通一... 上之通... 中日

此通之通... 中日

何方但此宛

中野又無係

此通之通... 何方但此宛... 中野又無係... 形案又此通... 月日

右方何... 交通... 此通之通... 月日

此通之通... 月日

此通之通... 月日

口内... 大過... 豊... 中... 月... 申...

申金

中... 入...

口内... 大過... 豊... 中... 月... 申...

口内... 大過... 豊... 中... 月... 申...

月口

口内... 大過... 豊... 中... 月... 申...

*[Faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

